
父親不在

ダイユウモソク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

父親不在

【Nコード】

N5519D

【作者名】

ダイユウモソク

【あらすじ】

父がいないことを、無意識に心の中に、隠してしまう子供。成長するにつれて、人と違うことに気がついていく。

父親がいらないということは、子供に何をもたらすか。

死から4カ月が経過した。

父の社宅に住んでいた一家は、会社から退去を命じられた。社員のための社宅なのだから、社員が不在となれば、社宅にいる理由はない。ごく当たり前の世間の常識が、母子2人には冷たい風となった。

「父が勤務していた会社の関連会社で働けば、社宅の住居を継続できる」。

こんな条件も、7歳の子供を抱えては難しく、結局、社宅を出ることになった。四畳半と六畳

で風呂なし。社宅から徒歩3分と近く、小学校も変わることはなかった。というより、変わらないように引っ越しをしてくれたのだと思う。

生活は一変というレベルではない。枯れはてたという言葉がしつくりとくる。

そんな時、父の親友が線香をあげにきた。以前、何回か会ったことがある。職場の仲間だったような気がする。後ろに、もう一人40歳の男・ひろしが一人いた。生前に、父と親しかったという。ひろしと、母子はその後幾度か食事に行くようになる。

「次の父親は、この人か」。

ため息、落胆にも近く、そして、どす黒い何かが胸をしめつけた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5519d/>

父親不在

2010年12月18日14時15分発行